

語彙力をつける指導法

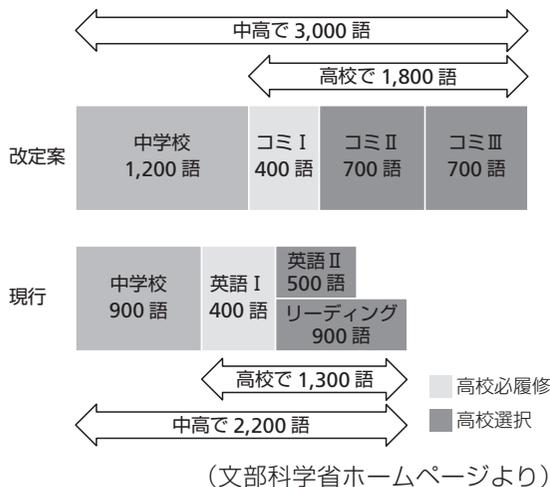
—授業の中で語彙を定着させていくための小さな提案—

玉川大学 日臺 滋之

はじめに

新学習指導要領によれば、中学では、指導する語数が従来の900語程度から1,200語程度へと増加しますし、高校では、合計で1,300語程度から1,800語程度へと増加します。中高における語彙総数は、現行の学習指導要領の2,200語程度から新学習指導要領では、3,000語程度へと増加することになります。

語彙数について



学習者の実態はどうか

筆者は、中学生、高校生、大学生を対象に英語の授業を担当してきました。教室で聞こえてきた声は、「単語が覚えられない」、「単語の並べ方がわからない」という声です。これは、深刻な問題であって、「単語が覚えられない」ということは、英文和訳・和文英訳ができない原因となり、このことは、コミュニケーションが不可能な状況が生まれてしまいます。また、「単語の並べ方がわからない」ということは、発話しても相手に理解されない、英語を書いても読み手に理解できない状

況が生まれるということになります。

中学校の語彙総数が900語の時でも、また高校の1,300語のときでも、生徒の声は「単語が覚えられない」、「単語の並べ方がわからない」状況であるのに、1,200語、1,800語になれば一体状況はどうなってしまうのでしょうか。

さて、教室での語彙指導はどうかと言うと、予習として単語の意味を調べてくるという課題等が一般的であり、語彙を覚えるのは学習者まかせであり、まだまだ教室では十分な行き届いた指導が行われていないのが現状です。本稿では、教室における具体的な語彙指導をいくつか提案したいと思います。

中学での学習の積み残しの問題

高校英語の役割として、高校では中学で学習したことを定着させつつ、さらに学習を積み上げていく。高校の授業では、中学での積み残しを教える必要もあると思います。その積み残しとは何かということですが、文法はもちろん、表現や語(句)もその一つだと思います。しかし、表現や語句の指導は文法と比べると軽視されがちです。学習者に任せてしまっている感すらあります。

表現活動を通して生徒がどのような表現を必要としているかを知る

筆者は、大学生だけでなく高大連携の一環として、某私立高校3年生48名の授業も担当しています。冬休み明けの1月最初の授業で、右記のワークシートを配布し、二人一組になり、冬休みの出来事について話してもらった活動を実施しています。2分間話す時間を与え、2分たったら、片方の列は固定し、一方の列の生徒に動いてもらいパートナーを代え、また2分間話してもらい、連

Let's Keep Talking for Two Minutes!

1.1 Build up your vocabulary!
 冬休みに? during the winter vacation
 旅行場所では何をしました?
 went skiing in Hokkaido, visited my friend in New Zealand, went to my grandfater's house in Sendai played *hanafuda* (*hanafuda*, *mahjong*, *hanetsuki*), spin a top (駒を回した), flew a kite (凧上げをした), ate *toshikoshi soba* in New Year's Eve (大晦日に年越しそばを食べた), made rice cake (餅を食べた), toasted a rice cake (餅を焼いた), listened to the temple bells on New Year's Eve (大晦日に除夜の鐘を聞いた), visited a shrine on New Year's Day (初詣に行った), watched *kokaku utagassen* (red-white song contest) on TV (テレビで紅白歌合戦を見た)
 いつ行った? left for Kyoto on December 25
 いつ帰った? came back from Kyoto on January 3
 交通手段は? by ship, by plane, by train, by car, by bus, went to Otsuka by *Shinkansen* (bullet train)
 旅行した相手は? with my family, with my friend, by myself
 滞在期間は? for a week, for twelve days

1.2 Let's talk to your friends about your winter vacation. Before you talk ...
 Write one topic you want to talk about.
 Write the related stories about the topic.
 1.
 2.
 3.
 4.
 5.
 6.
 7.

1.3 Please write the expressions you wanted to say, but you couldn't in Japanese. (友達と英語の chat で、「こんなことを言いたかったけれど言えなかった」ということを日本語で書きなさい。)

話すためのメモですから英文ではなく単語で書きます!

続いて3回実施しています。タスクを繰り返すことにより、1回目よりは2回目、2回目よりは3回目の方がスムーズに話ができるようになります。

最後に、上記ワークシートの「英語で言いたかったけれども言えなかった表現」(1.3)を日本語で書いてもらいます。

類似した質問をまとめて、上位3名以上からの質問を列挙すると以下ようになりました。

- 1位: 「二泊三日」「三泊四日」をどう言えばいいかわからなかったです。四泊五日。五泊六日。滞在期間は? 何泊何日泊まった?(6名)
 2位: 「他には何をしたか」で「他には」という言い方がよくわからなかった。(4名)
 3位: 「お節」は Osechi で良いんでしょうか? おせちを食べた。おせち料理をお腹一杯食べた。(4名)
 4位: 時給はいくら?(3名)

実は、筆者が過去に中学校に勤務していたとき、同じワークシートで、同じ時期に、同じ2分間で、中学生に全く同様の活動を実施し、中学生がどのような表現を英語で言えないのか調査し

ています。わかったことは、中学生のときに英語で言えなかった表現は、高校生になっても、教えられる機会がなければ、言えるようにはならないということです。2位の「他に何をしたのか」(What else did you do? elseの使い方がわからなかったのでしょうか。)、3位「おせち料理」(Osechi, Japanese traditional New Year's food) は筆者が中学校に勤務していたとき、中学生から出た質問と全く同じなのです。このような中学校で積み残しされた表現を指導する必要があります。さらに、高校生になると、1位「二泊三日」はどう言うの?(three days and two nights) とか、4位「時給はいくら?」(How much do you get an hour?) といったいかにも高校生らしい質問が追加されます。

まずはこういった自己表現活動を高校でも行うことが必要だと思います。そして、自己表現活動に取り組みながら、生徒が活動に必要な表現を教えていくことこそ大切なのではないかと思います。このような学習者からの質問を集めた学習者コーパスは、すでに EasyKWIC2 (注1) に収められているので一度アクセスしてみてもでしょうか。また、このような「英語で言いたかったけれども言えなかった表現」をどのように指導したらよいかについては『コーパスワーク56』(注2) などをご覧くださいをお勧めしたいと思います。

授業の中で語彙を定着させていくための小さな提案

1. WordFlash を活用して教科書で導入した語彙を繰り返し提示し、語彙を定着させる

毎回こまめに単語テストをやっても、準備してこない生徒は点数に結びつかないし、語彙も定着しないと思います。授業の最初の5分間に、WordFlash (注3) というフリーソフトを使って、前時、前々時あるいは一つ前の課に出てきた新出語句を拾い出して、語彙の復習を行ってみてもどうでしょうか。語彙は繰り返し学習しないとたどころに忘却してしまいます。語彙の recycleこそ必要だと思います。まず指導が先で、単語テストはその後から実施すればよいと思います。

授業では、ラップトップのコンピュータとプロ

ジェクター、そして電子黒板（あるいはスクリーン）を準備します。あらかじめ、WordFlashをラップトップのコンピュータにインストールしておきます。

次に、下記のように、Excelで教科書の新出語句を英語と日本語が一对一に対応するように作成し、一方を英日ファイル、他方を日英ファイルとして別々に保存します。

personal	個人の、自分自身の
photographer	写真家
encounter	出会い

個人の、自分自身の	personal
写真家	photographer
出会い	encounter

(CROWN English Series I , p.7)

授業では、WordFlashを起動し、英日ファイルを選択すると、スクリーンに英語が表示され、その後、数秒して（間隔は調整可能）、対応する日本語が表示されるので、1回目は、英語が表示されると同時に、先生が発音し、そのあと生徒にあとをつけて言わせませす。

英日ファイルを使って英単語が発音できるようになったら、次に、日英ファイルを選択します。日本語が表示され、次に対応する英語が表示されますので、日本語が表示されたとき、生徒に英語を言わせるようにするとよいと思います。

筆者は、大学1年生対象のIntensive Englishの授業でWordFlashを語彙の導入や復習に使用していますが、大学1年生でも電子黒板（あるいはスクリーン）に現れる語彙をきちんと声を出して発音してくれています。試してみませんか。

2. Read and Look upで教科書の英文を頭に入れる活動を通して語彙を定着させていく

中学校では、訳読だけで授業を終わりにすることは、まず考えられません。教科書の本文の内容がわかったところで、Chorus Reading→Buzz Reading→Individual Readingと音読指導をすすめ、Read and Look upを通して、教科書の英文を頭に入れるようにしていきます。教科書の英

文が頭に入らないと、つまり英文がinputされ、intakeされていないと、教科書の内容を自分の言葉で相手に伝えるようなoutputの活動は望めないからです。また、outputができないようですと、active vocabularyとしての語彙の定着もなかなか難しいのではないのでしょうか。

さて、Read and Look upですが、文が長くなるにしたがって、なかなか一文を丸ごと頭に入れるのは容易ではないと思います。その場合には、意味のまとまりごとに区切っていけばよいと思います。実際の授業では次のようにすすめていきます。

T: Look at the fourth line. 'I went to America for the first time'. Three, two, one. Look up and say.

S: I went to America for the first time.

T: Next, 'when I was sixteen'. Three, two, one. Look up and say.

S: When I was sixteen.

T: The fourth line. One more time. Two parts together. Three, two, one. Look up and say.

S: I went to America for the first time when I was sixteen.

T: Good. Let's go to the next sentence....

(教科書原文4行目から) I went to America for the first time when I was sixteen. Nowadays many young people go abroad; things have changed a lot since I was a boy. To me, America was a strange, far-away land. However, I had a dream to cross the ocean by ship and to hitchhike across America.

(CROWN English Series I , p.23)

授業の進捗から、全文が無理な状況であれば、ターゲットとなる文法事項を含む文（『CROWN English Series I』では、G-1、G-2の印がついています）を拾い出して、授業の最後にはRead and Look upの時間をぜひ持ちたいものです。

3. 復習でLast Sentence Dictationを通して、語彙の定着を確認する

前時に音読も終え、Read and Look upで教科書の英文が少しずつ頭に入るトレーニングを実施し、次時の最初には復習として、ぜひLast Sentence Dictationを実施したいものです。前時に学習した箇所の教科書の英文を用いて、一度Chorus Readingを行います。次に生徒に教科書を閉じさせ、教師が同じ英文を読み進め、途中で読むのを止めます。生徒は、聞こえてきた最後の一文を書き取ります。生徒は集中していないと最後の一文を書き取ることはできませんし、英文が頭に入っていないと一字一句正確に書き取ることはいけません。生徒に書き取らせたい文は、ターゲットとなる文法事項を含む文や、感動的な文を意図的に選ぶのがよいと思います。もし、そのことに生徒が気づき、事前にその文を練習してくればそれはそれでよいことではないでしょうか。

Last Sentence DictationではB5用紙を4等分した程度の書き取り用紙を配布し、復習として毎時間行うのが良いと思います。採点するにも1クラス15分前後でできてしまい、大して時間もかかりません。

実際の授業の流れは以下ようになります。

T: Now everyone, open your textbook to page 23. Please repeat the sentences after me.
(生徒は教師の後についてChorus Reading)

T: OK. Close your text book.

(Last Sentence Dictationの用紙を配布)

T: I went to America for the first time when I was sixteen. Nowadays many young people go abroad; things have changed a lot since I was a boy.

S: (生徒は教師が読んだ最後の文Nowadays many young people go abroad; things have changed a lot since I was a boy.を用紙に書きます。)

T: Does anyone need more time? (Yes.の応答がなければ) Please stop writing. Pass your sheet to the front.と言って用紙を回収します。

終わりに

最後に、辞書指導(注4)について触れておきたいと思います。中学の検定教科書の巻末には単語の意味が記載されていますが、ほとんどの高校の教科書にはそのようなものはありません。自分で辞書を引いて文脈から語義を決定しなくてはなりません。辞書の使い方を知らない高校生はそこで躓いてしまいます。それこそ語彙力をつけるどころの問題ではありません。高校の先生からは、中学校で辞書の引き方ぐらい教えてきて欲しいという声も聞きます。しかし、週3時間で辞書指導まで手が回らなかったことも確かです。週4時間になっても厳しい現実があります。高校では、まず学習ツールの使い方として辞書指導をお願いしたいと思います。辞書指導は生徒が言葉に興味を持ち、自分の力で語彙力をつけていく可能性を大いに秘めているのですから。

【参考文献】

- (注1) 上田博人. 2008. 「簡単な検索プログラム: EasyKWIC2」. 東京大学
(<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gengo/easykwic/index.html>)
- (注2) 日臺滋之・太田洋. 2008. 『1日10分で英語力をアップする! コーパスワーク56』. 明治図書.
- (注3) WordFlashは、<http://www.eigo.org/kenkyu/>よりダウンロードできます。(中英研・研究部ホームページ)
- (注4) 日臺滋之. 2009. 『中学 英語辞書の使い方ハンドブック』. 明治図書.

